■大学昇格100年記念特集

関西大学 大学昇格 100th

The Story of 山岡順太郎

Juntaro YAMAOKA
1866～1928

▲大阪商船の執務室にて（個人蔵）

山岡順太郎（個人蔵）

「経世済民」の大志を抱き、大阪財界を発展

1922（大正11）年6月、関西大学は大学令により大阪初の私立大学に昇格しました。当時の総理事・山岡順太郎（1866～1928年）は昇格を主導し、関西大学にとって「中興の祖」と言うべき存在であり、昇格後も「学の実化」を提唱して今日の関西大学の基礎を作り上げました。

一方で、山岡は明治・大正時代にかけて大阪の経済界に大きな足跡を残した実業家でもありました。山岡はどのような志を持ち、数々の偉業を成し遂げたのでしょうか。山岡のその生涯を辿ります。

家族を養い「経世済民」の志を抱く

山岡は1866（慶応2）年9月18日、金沢藩の下級武士・山岡彌五郎の長男として生まれました。明治政府による家禄奉還後、豊かとは言えない幼少期を過ごし、1879（明治12）年に金沢医学校原書科（現・金沢大学）に入学するも1年ほどで中退。志は医学でなく「経世済民」にあったためと伝わります。1883（明治16）年に上京し、儒学者・石埼少洲の塾に入門。漢学と数学を学びました。この頃、父を亡くし、陸軍士官学校を受験するも2次試験直前にけがをして断念。一家を扶養するため1885（明治18）年、茨城県の収税属になりましたが、租税を取り立てる役所仕事が性に合わず、7年で退職しました。

1892（明治25）年、郷里・石川県の先輩で逓信省大臣官房財務課長だった中橋徳五郎（後に文部大臣）の引き合いで、山岡は逓信省財務課出納係員に採用されました。中橋も石埼の塾に出入りしており、かねてからその存在を認めていたといいます。以降、山岡は中橋に付き従うように行動を共にします。

▲家族とともに。左が山岡順太郎（個人蔵）

1866

▲ポスター「天下の楽土 別府温泉」（1924年・個人蔵）

1898

実業家として頭角を現す

1898（明治31）年7月、中橋が大阪商船株式会社（現・商船三井）の社長に迎えられると、山岡も9月に文書課助役として入社。1907（明治40）年には内航部長に就任し、別府航路の開発に尽力します。当時、外航に比べ内航は赤字部門でしたが、山岡は自ら「天下の楽土別府温泉」「世界の公園瀬戸内海」などのキャッチフレーズを考案。旅客船「紅丸（くれないまる）」を就航させ、大いに人気を博しました。収益増加に貢献して会社隆盛の基礎を築くと同時に、別府を一大観光地に成長させる功労者ともなりました。

手腕は内外に知られ、山岡は1914（大正3）年3月、業績不振にあえいでいた大阪鉄工所（現・日立造船）から依頼を受け、社長に就任。直後の7月、第一次世界大戦が勃発し、日本の海運業、造船業は未曾有の活況を呈します。この軍需に加え山岡の積極策により、大阪鉄工所の造船の進水トン数は4年後には10倍に達し、三菱、川崎両造船所をしのぎ日本一となりました。

同年11月、大阪商船社長の中橋が政界入りしたのに伴い、山岡は同社副社長に就任。大阪鉄工所社長を兼任し、翌年、会長に就任しました。

こうして山岡は海運・造船業の雄として大阪財界に確かな地歩を築きます。1917（大正6）年12月には土居通夫（関西法律学校創立者の1人）の後任として大阪商業会議所（現・大阪商工会議所）第8代会頭に就任しました。

■大学昇格100年記念特集

1918

時代は「大大阪」へ

▲ 大阪商業会議所議員：前から2列目・左から3人目が山岡（個人蔵）

第一次世界大戦を機に、大阪市の市街地化は急速に進み、人口分散や郊外住宅地の形成などを含む市域拡張計画が進められました。1925（大正14）年4月、大阪市は人口で東京市（当時）をしのぐ「大大阪」となります。山岡が活躍した時代は、大阪から大大阪へと移行する過渡期。1921（大正10）年3月末までの会頭時代、山岡は多くの業績を残します。

そのうちの一つ「化学工業博覧会」は、1918（大正7）年4～6月に天王寺公園で開催されました。大戦景気と相まって、塗料や薬品、ガラス、レンガ、油脂、窒素など化学工業が隆盛した時代。大戦後も化学工業の一層の発展を企図していました。化学工業関係者だけでなく、一般来場者の興味を引く展示も用意され、会期75日間の観覧者は46万人に上りました。

1919

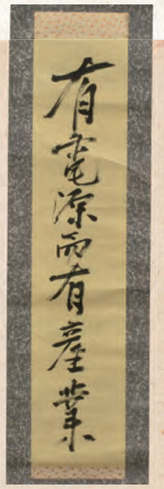
時代を先取りする慧眼

人材育成の事業として「商業学力検定試験」の導入があります。1919（大正8）年に実施し、合格者に商業学校卒業と同等の資格を与えました。現在、大阪商工会議所が実施する珠算・簿記など各種検定試験の始まりで、全国の会議所珠算検定試験は1940（昭和15）年開始のため、進取性に富んだ取り組みと言えるでしょう。

また、関西では都市化、工業化により電力需要が高まり、供給が逼迫していました。大阪商業会議所は北陸の河川に水力発電所を設置し、高圧電線で関東、中部、関西方面へ電力を供給する計画を立てました。「有電源而有産業」を年来の持論としていた山岡は創立委員長となり、1919（大正8）年12月、日本電力株式会社を設立。黒部川流域の開発に乗り出し、水力発電所や一部に火力発電所を建設し、都市部へ送電しました。

さらに、山岡は大阪の住宅難を解消するため、1920（大正9）年3月、大阪住宅経営株式会社を設立。千里山に400戸、大阪市に330戸の住宅を建設しました。社会事業として会社に公益性を持たせ、自身も社長在任中は俸給を辞退しました。

山岡は計12社の取締役（社長・会長）、21社の相談役、関西大学を含む教育機関や商業会議所など30余の組織の公職を務めたと記録が残ります。しかもその業績からは、自らの企業の利益よりも社会インフラの整備や人材育成、経済界全体の発展へ心を砕いた「人間」山岡の姿が浮かび上がります。



▲ 山岡順太郎の揮毫「有電源而有産業」（個人蔵）

■山岡順太郎の主な職歴（会社取締役）

- 大阪商船（現・商船三井）取締役副社長・取締役理事
- 大阪鉄工所（現・日立造船）取締役会長・取締役社長
- 日魯漁業（現・マルハニチロ）取締役
- 沖台拓殖製糖 取締役
- 大阪曹達（現・大阪ソーダ）取締役
- 宇治川電気 取締役
- 日本電力 取締役社長
- 大阪住宅経営 取締役社長
- 関西電力 取締役社長
- 美章土地 取締役社長
- 東洋アルミナム 取締役社長
- 日本電解製鉄所 取締役社長

※ 上記12社の会社取締役（会長・社長）のほか、21社の会社相談役・監事、27の公職、4の教育関係公職（関西大学含む）を歴任。
また、公職・公共事業の中では「恩賜財団済生会」の監事として、病院事業の発展拡張に力を注いだ。

1922

▲ 1922年関西大学理事会：前列右から2人目が山岡（関西大学年史編纂室蔵）

大学昇格と基礎づくり

山岡と関西大学の縁は、関西大学理事の柿崎欽吾に乞われ、1920（大正9）年9月、大学評議員に就いたのが始まりでした。柿崎は大阪商船の顧問弁護士や大阪住宅経営の専務を務め、山岡と旧知の間柄だったからこそ実現した招聘でした。1年後、山岡は関西大学拡張後援会会長に就任。以降、募金や大学昇格に向けた事業の中心的な役割を担います。大阪財界のバックアップも得て、「大学令」で求められた校地の選定・取得、施設の建築、教員の確保、文部省への供託金など多数の要件をクリアし、1922（大正11）年6月5日、念願の大学昇格を果たしました。時の文部大臣は山岡の先輩の中橋でした。

それに先立つ4月、大学の臨時協議員総会は山岡を理事に選任し、翌月には総理事となりました。その後、山岡は「学の実化」を提唱。学理と実際の調和に重きを置く思想は、実社会で有用な人物の養成に力を注ぐ大学の学是となりました。

関西大学は2022年、山岡の志を継いで「学の実化」を具現化し、次世代を担う経済人や起業家らを育成する「山岡塾」を創設。塾生たちは、経済活性化や地方創生、DX・AIの活用、SDGsの推進など社会的課題の解決に向けてチームで協働しながら実践的に取り組みます。

1928

晩年の夢

晩年にかけて山岡は、富山県・黒部渓谷での電力開発に力を注ぎました。日本の電力供給を一本化する大構想を持っていましたが、構想が実ることはなく、やがて病により黒部渓谷の宇奈月の別荘・独楽荘で療養生活を送りました。

病が進み、近親者に「もう2年の寿命がほしい」と言葉を残し、1928（昭和3）年11月26日、大阪市住吉区天王寺町（当時）の自宅で逝去。62歳でその生涯を閉じました。

独楽荘の碑▶

宇奈月の別荘・独楽荘（個人蔵）

北陽高等学校の創立者・山岡倭

北陽商業学校の建物

関西大学北陽高等学校の前身となる北陽商業学校は、山岡順太郎の長男・倭（やまと）が設立者となり、1925（大正14）年4月に開校しました。また、初代校長の糸島実太郎は関西大学専門部経済学科の出身です。

その後、北陽高等学校と改称し、2008（平成20）年に北陽高校を運営する学校法人福武学園と合併。関西大学の併設校になりました。実は深い縁があったこの合併を山岡順太郎、倭は知る由もありません。

協力：熊博毅氏／参考：『山岡順太郎傳』（鹿子木彦三郎・昭和4年）